

2019年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 1/3

日程	研究科	区分	試験科目
A日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日本語

第1問 (1)～(10)の下線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 既知 の知識を生かす。
- (2) 活躍が互いの信頼関係の構築に 寄与 している。
- (3) 活性化 につながっている。
- (4) 前述 の通り、Aであることは確認されている。
- (5) ボタン 操作 の設定をする。
- (6) 明確ではないという印象は 否 めない。
- (7) 顕著 な変化は見られなかった。
- (8) 潜在的 能力があると考えられる。
- (9) 最近の 文献 に当たって調べる。
- (10) この用語の使用 頻度 は高い。

第2問 (11)～(20)の下線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- (11) 分析の結果、これまでの ちけん を確認することができた。
- (12) 理論と じっせん の両面から考える必要がある。
- (13) 実験方法については図3を さんしょう のこと。
- (14) AとBの間には そうかん 関係が見られた。
- (15) 実験の結果、いくつかの せいか が確認できた。
- (16) 5% すいじゅん で統計的に有意な差があった。
- (17) AとBが同一文脈内で きょうき する場合について取り上げる。
- (18) 調査からAが全体の40%を し めることがわかった。
- (19) このデータは社会の動きを はんえい しているといえる。
- (20) これまでの結果から総合的に こうさつ を行う。

第3問 次の文の下線 (21)～(25) に適切なことばを下のA～Eから選んで、その記号を書きなさい。

- ・各研究分野のそれぞれの (21) でこれまでに (22) された理論について、改めて検証を加えていくことは極めて重要なことである。
- ・この調査によると、回答にみられる結果では、現状に対する意識についてはグループごとに異なった (23) を呈しており、結論としては、仮説とは異なる可能性が (24) されている。
- ・これは、AとBの形式の類似性に (25) するものだと考えられている。

A. 指摘	B. 提唱	C. 起因	D. 論考	E. 様相
-------	-------	-------	-------	-------

2019年度大学院応用言語学研究科博士前期課程入学試験問題

No. 2/3

日程	研究科	区分	試験科目
A日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日本語

第4問 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

問題文については、
著作権の関係から掲載いたしません。

2019年度応用言語学大学院研究科博士前期課程入学試験問題

No. 3/3

日程	研究科	区分	試験科目
A日程	応用言語学研究科	一般 社会人 外国人留学生	日本語

- (1) 空欄 A に入れるのに最もふさわしい一語を記しなさい。
- (2) 下線部B 意図的に誤記・誤変換する とあるが、なぜこのようなことをするのか、文中から読み取れる内容に基づいて説明しなさい。
- (3) 下線部C 超言文一致体 とあるが、「言文一致体」とは何か、簡潔に説明しなさい。
- (4) この文章を読んであなたが考えたことを、120字以上150字以内でまとめなさい。